

8 移動困難者の動き

1. 外出に関する困難の内訳

● 外出に関する困難ありと回答した方の中で、その内訳をみると、歩行困難を有する人は約13%、車いすを利用する人は約14%、公共交通（一般タクシーを含む）を利用できない人は約7%となっています。（複数回答あり）

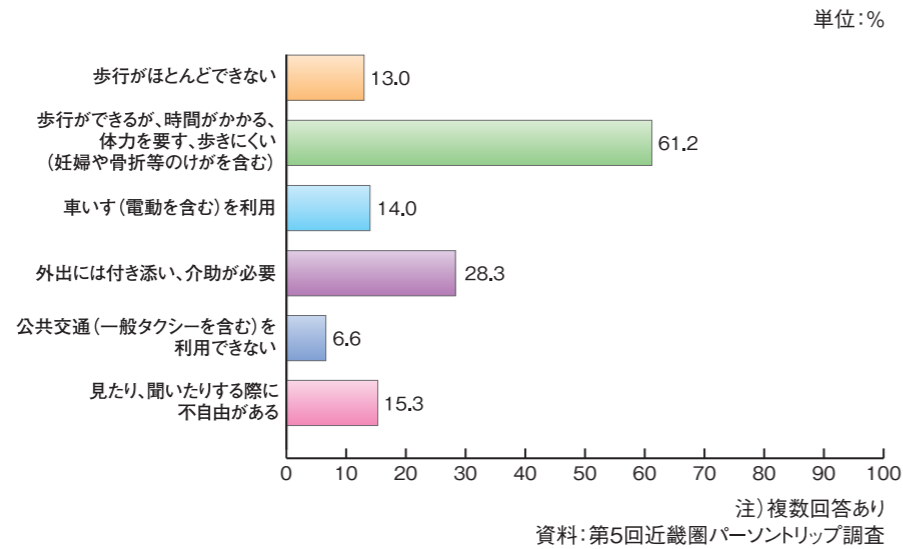


図44 外出に関する困難の内訳 (平成22年)

2. 年齢階層別の外出に関する困難の有無

● 年齢階層別に外出に関する困難の有無をみると、50歳以降で年齢が高くなるにつれ、その割合が増えています。
● 60歳代では1割未満ですが、75歳以上では約4割が何らかの外出に関する困難を抱えていることが分かります。

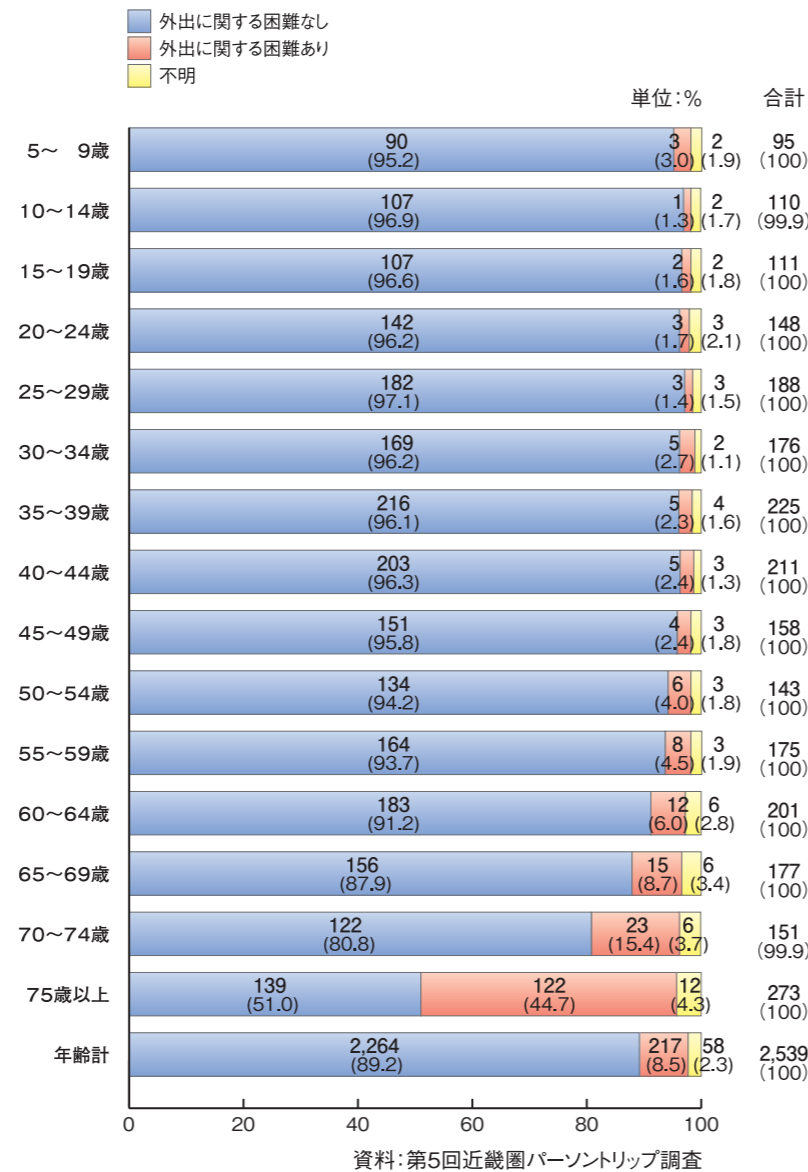


図45 年齢階層別に見た外出に関する困難の有無 (平成22年)

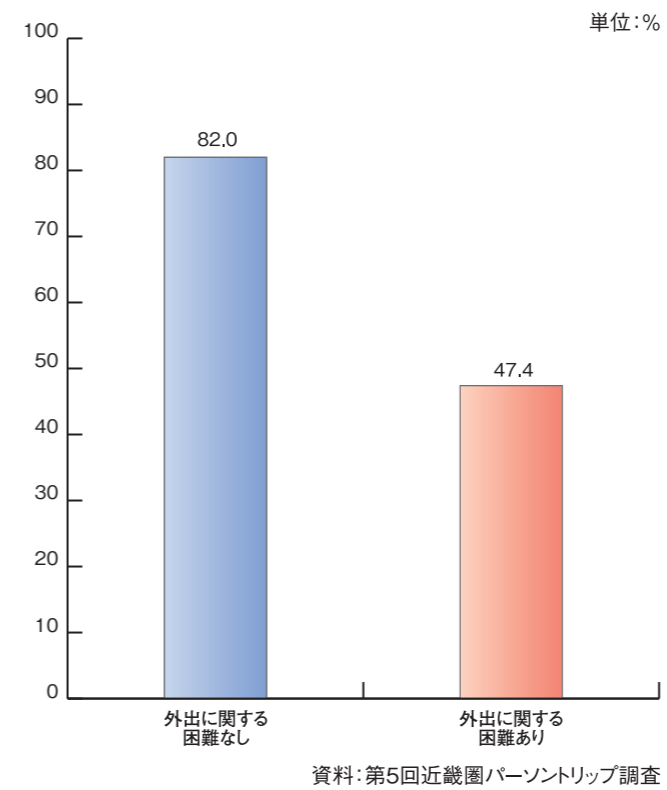


図46 外出に関する困難の有無別に見た外出率 (平成22年)

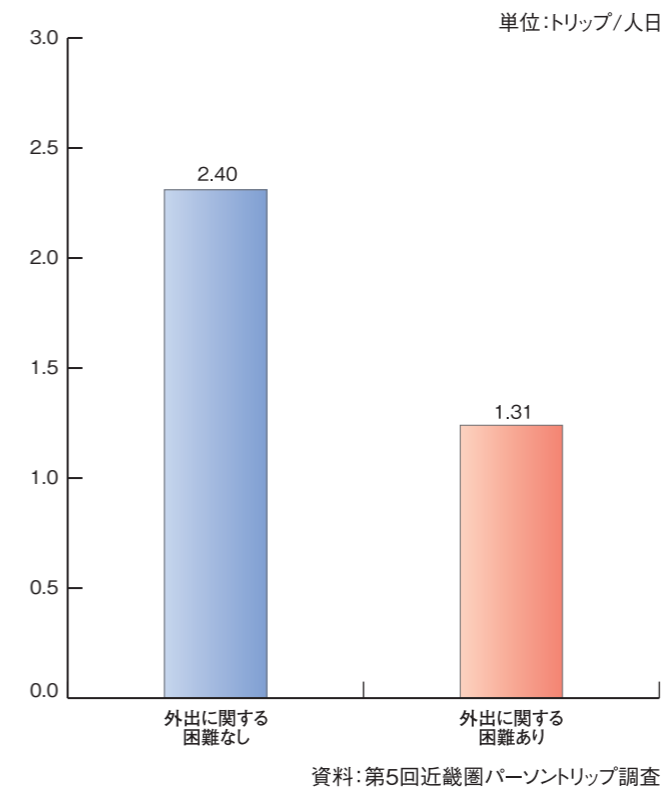


図47 外出に関する困難の有無別に見た生成原単位 (平成22年)

3. 外出困難者の外出率

● 外出に関する困難の有無別に外出率を比較すると、外出に関する困難がない人は約8割であるのに対して、困難がある人は半数程度しか外出していないことが分かります。

4. 外出困難者の生成原単位

● 外出に関する困難の有無別に、大阪市に居住する人の平日1日当たりのトリップ数(生成原単位)を比較すると、外出に関する困難がある人は、ない人に比べて約1.09トリップ/人日小さくなっています。